

福井県あわら市におけるミディト マトの普及と出荷形態の変化

富山大学人文学部人文学科

社会文化コース 人文地理学研究室 4年

11810019 江守遥介

1. 問題の所在

- 1990年代以降の貿易の自由化などの影響により高品質の作物・ニッチ作物に注目が集まっている。 中窪(2009)
- 新品種の普及過程では革新的な性格を有する農家がいち早く試験栽培を始めたことが導入の契機となった。 林(1994)

- 複数の新品種の導入を比較し、農協出荷の農家に革新者が存在することを明らかにしてその分類分けを行った。 羽田(2017)
- パットナム(2006)、アプホフ(1999)、Granovetter(1973)の論文を参考に、社会関係資本を基にしたパーソナルネットワークの分析を行った。 中田(2020)

2. 研究の目的

知名度の低いニッチ作物であり、通常の大玉トマトよりも高い糖度や栄養をそなえている高品質な作物の越のルビーを対象に、どのようにイノベーションが行われたかを明らかにし、革新的な性格を持っている農家とその農家が所属する社会関係資本の傾向を分析し、イノベーションに与える社会関係資本の影響を考察する。

3. 研究方法

公的機関所蔵の各種資料のデータの収集を行い、また、あわら市の農林水産課、県の普及施設、当時の状況を知る民間企業の方への聞き取り調査により産地の動向を確認しつつ、あわら市の越のルビー農家の方への普及を調べるため、出荷形態などの聞き取り調査を行う。

越のルビーの特性

- 大玉トマトとミニトマトの間の、ピンポン玉くらいの大きさを持ち、糖度と栄養価が高い。
- 砂地を含み、水はけがいい肥沃な土地が栽培に適している。
- 温度管理が必要なため、ビニールハウスが必須

4. 越のルビ一の開発と普及の経緯

(1) 開発・導入初期

1970年代以降の水田から施設園芸栽培へ転作の増加



越のルビ一の開発



育苗ハウスを利用した試験栽培の普及

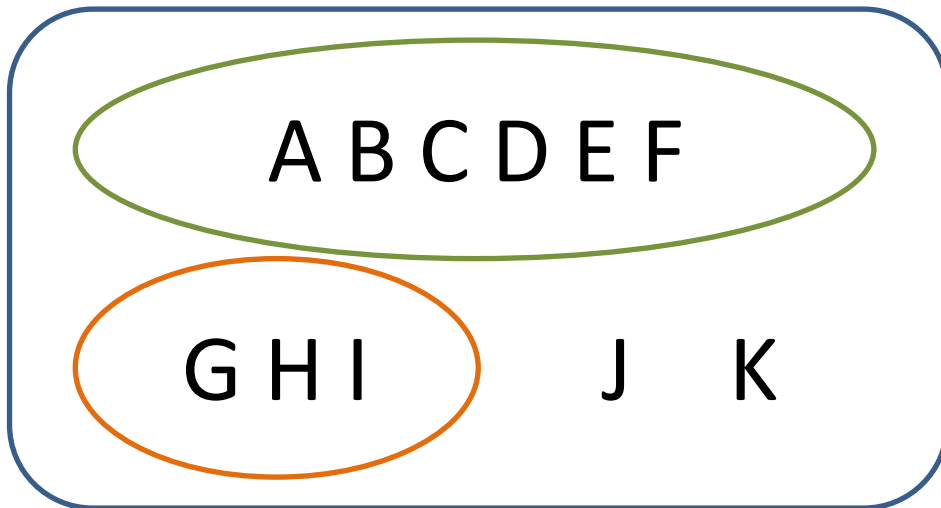
(2) 転換期

- ・越のルビーの新品種が登場
- ・生産量、栽培面積の減少

あわら市の農家の情報

農家名	労働力構成				出荷形態
	30~39	40~59	60~79	80~	
A			■▲		JA、直売所、直接販売
B				■▲	JA、直売所、直接販売
C				■	JA、直売所、直接販売
D				■▲	JA、直売所、直接販売
E			■▲		JA、直売所、直接販売
F			■		JA、直売所、直接販売
G			■▲		JA、直接契約、直売所
H		■	■▲		直接販売、JA
I			▲(■)		直接販売
J		■	△△▲	△	行商、宅配、加工品
K			■▲		JA、宅配

労働力：■ 男性 ▲ 女性 白色 パート () 一時的な労働力
 (聞き取り調査より作成)



青: JAのトマト部会
 緑: 男性のグループ
 橙: 女性のグループ



青:JAのトマト部会
 緑:男性のグループ
 橙:女性のグループ

越のルビのイノベーションに関連した紐帯の分類

紐帯	構造的/認知的	橋渡し型/結束型	頻度(時間)	紐帯の強さ	所属農家
①育苗ハウスなどの近所農家間の紐帯	認知的	結束型	多い	強い	
②奈須田町長と町会議員	構造的	橋渡し型	多い	弱い	
③JAの部会	構造的	橋渡し型	少ない	弱い	A~K
④水田施設園芸組合	構造的	橋渡し型	少ない	弱い	A
⑤男性グループ	認知的	橋渡し型	少ない	弱い	ABCDEF
⑥女性グループ	認知的	結束型	多い	強い	GHI
⑦直売所での顔見知りネットワーク	構造的	橋渡し型	少ない	弱い	GI

(聞き取り調査より作成)

補足

プロセスイノベーションとプロダクトイノベーションが起きたのちに強い紐帯の中でイノベーションが進展している。

まとめ

- ・所属するグループの特性により出荷形態のイノベーションが促進される場合が存在する。
- ・先行研究で示されているように弱い紐帯で情報が広まり、先駆的農家がイノベーションを導入したのちに強い紐帯内で中間的な農家に対してイノベーションが広まっていた。